

## 全教広島第39回定期大会 教職員の長時間過密労働解消し だれもがいきいきと働きつづけられる学校・職場づくりを!



【オンラインでも25名が参加しました】

全教広島第39回定期大会は、オンライン併用で5月18日(土)、広島ロードビルで開催されました。大会には支部専門部選出の代議員など57名が参加しました。広島各学校と教育の現状が交流されるとともに、それらを打開する小さな一歩や展望が語られました。提案されたすべての議案が全会一致で採択されました。

大会は武本副委員長の開会宣言ではじまり、議事運営委員や議長などを選出。開会にあたって船石執行委員長は「ウクライナやガザの現状に触れ、「日本は、先の戦争の反省を踏まえて、平和的に解決する方法を、世界に発信していく役割があると思うが、今の政権はそうしようとはしていない。そうであれば、そういう政権をつくるために、周囲に働きかけよう」と述べました。また、中教審特別部会の「審議のまとめ」に触れ、宣言では「私たちが求めてきたことはわずかな給料増ではない。最終目的は、子どものためにも自分のためにも豊かで十分な時間が取れる、そんなイメージをもって運動を進めよう。今日の大会を節目に、全教広島の活動を広げて、大きくしていこう」と挨拶しました。

全教本部からは、平尾書記次長が現地参加。「審議のまとめ」の解説と批判を中心に挨拶。「審議のまとめ」が、私たちの願いである教職員の増員、教育予算増、時間外勤務に対する手当支給を可能とする給特法改正に背を向けるだけでなく、学級担任手当の新設や、教諭と主幹教諭の間に「新たな職」を設けるなど、教職員の共同を破壊する内容であること強く批判。「全教の運動で、このままでは学校がもたない」危機的状況を改善する道を切り拓こう」と述べました。



船石執行委員長

育にお金を、「職場、地域、社会での共同を、集まり、語り、学び合うことで広げよう」などを中心とした提案がありました。

討論は全部で13本。いずれも議案に賛成し、補強する立場から、職場に根ざし、働き方の実態について触れる発言が多かったのが特徴でした。目の前の困難に立ち向かったり、同僚の困りごとに寄り添い仲間を増やしたりする組合員の姿が語られ、仲間を大きく増やして一層大きな全教広島をつくっていくことの重要性を確認することができた大会となりました。



「戦雲(いくさぶむ)」という映画を観た。政府は中国・北朝鮮の脅威等国際情勢の変化に対応するためと軍事施設を次々に南西諸島の与那国島・石垣島・宮古島・沖縄本島などに建設を進めている。ミサイル基地・射撃訓練場を備えた弾薬庫・基地の地下化などが進み、既に完成したものも多い。これらは現地の町民も知らされないままに進められていたり、住民投票運動は市政に潰されたりしている。しかし、このような出来事は報道されることもない。

### あらくさ

呉市の日鉄跡地の複合軍事施設の計画がこれと重なる。五年間で四十三兆円もの防衛費をかかげミサイル・戦車・戦闘機・軍事施設と莫大な予算を費やし軍備が拡大している。国防とは平和とは何か、問い続けたい。(T)

次頁に討論の概要》

# 未来を見据えながら、目の前の課題にとりくむ

第39回定期大会では13名が発言しました。いずれの発言も執行部提案を補強し、厳しい情勢の中でも組合の存在意義を感じさせる発言が多く、はげまされました。

■県教委の前教育長を中心とした談合問題で住民訴訟を行っている。前教育長は何の責任もとらずに去っていったが、賠償請求額が一億円を超える大問題だ。教育長の退任で幕引きは許されない。具体的な事実の積み上げで、全容解明、裁判勝利を目指したい。ぜひ情報提供を。(広島)

■要録の所見の文章が敬体でもよくなった。これだけのことだが、負担軽減になる。職場で多くの人が感じていたことを要求として当局に届けた結果だ。これが組合運動の原点。十年後、二十年後を見据えた制度改善の運動と同時に、身近な教職員の声を集めることを大事にし、「要求では多数派」を自負して奮闘していきたい。(広島)

■若い先生の加入までの経緯。2年目で初めての担任で6年生。しんどそうにしていたので声をかけた。その時、彼女に話したことは「相談できる人がいる?」

と「組合ってね」。2回目の対話は、人事の内示発表の日。私の異動が発表された後。組合に入っていたら、私もしてもらったように、助けてあげられることもあると伝えた。彼女は加入を決断。声をかけていくことは、大切だなと感じた。(広島)

## 大会の 討論より

■勤務している特別支援学校の高等部の一部が近隣の高校の空き教室を使って分校として開設された。分校の生徒は、普通教室を二分割しているの狭い、農園芸ができない、プール使用はバスで異動、中学部の生徒は先輩の姿を見ることができない、教職員が二カ所に分かれるのでそれぞれの仕事が増えるなど多くの問題が生じている。(佐伯)

## 困り事に寄り添う、愚痴や悩みを要求に

■四月から半年の育児休業を取得中。心穏やかに我が子の成長を見られ心底取得してよかったと感じている。しかし、依然として男性の育児取得は進んでいない。①職場に迷惑がかかる、②給付の少なさと期間の短さなどが原因。安心して制度を活用できる職場環境や制度の改善が課題だ。(青年部)

■しばらく一般企業に勤めていたが、転職して四年前。今、育休代替で中学校に勤めている。昨年は四〇人クラスで生徒も落ち着かず、理科室も大きい方しか入れなかった。今年は三五人クラスで生徒も落ち着いている。前職は三六協定があり残業規制もあった。教員は基本給が高いが問題も様々ある。組合で学んでいきたい。(尾道)

■呉市の中学生の事故死に関わる集会の中で、不登校の子どもの保護者とながりをもつことになった。組合としては、呉市はSSRの配置が近隣の自治体と比べても進んでいないことを取り上げ市教委と懇談をもった。また、このつなが

りをもとにして、明日、不登校を考える集会をもつ。こうした取り組みを大切にしたい。(海田)

■人事交流で子ども家庭センターに勤務している。そこから学校を見ることで感じていたこと。地域や保護者は意外と学校のことを知らない。それら様々なケースへの対応で、教育委員会が保護者との間に入り、教職員を守る立場で動いてほしいと思うが、そうならない。「働き方改革」というのであれば、教職員を守ってほしい。ここでは時間外勤務手当支給の仕組みがあるので、定時退庁を目指す。学校もそうならないものか。(福山)

■昨年度、組合・共済推進委員になり、西田さんと東広島市の学校を訪問し、対話したこときっかけに、自分勤務校で総合共済の宣伝をした。十数人にピラを渡した後、結婚を控えている人や、親しくしている人など個人にも話をしていったら、年末までに十人が加入してくれた。声をかけるべき人は身近にいる(海田)

## 職場の同僚性を大切に その要に全教広島がある

■今年度異動した学校では勤務削減のアンケートを実施している。どんな展開になるのか見守りたい。国では中教審特別部の「審議のまとめ」が出されたが、一体どれだけ現場の声を聞いているのか。ドイツではこうした議論に現場の人を入れるルールがあるらしい。このままでは学校現場は無法地帯だ。(福山)

■先日、同じ職場の方が組合に加入してくれた。私も彼も新転任者同士で仲良くなった。彼は他自治体からの転任のため身近に知り合いもなく、私がいけると相談に乗ることもあった。その中で組合のことも話題にした。情報交流の場、転勤してもつながれるなどの話をする、「入ってみてもいいかな」と言ってくれた。これからも仲間を増やしたい。(福山)





■女性部アンケートを実施中。制度は前進しているが使いにくい現場の実情を改善したい。職場でアンケートの回答を同僚に依頼すると「県教委とたたかってくれているんですね」と快く応じてくれない。SNSを使うことで簡単に回答できるのがある。今年も市教組と合同で権利学習会を計画している。スイーツなども用意して心も体も楽しめるものにした。

(女性部)

■組合の運動の成果もあり、産休予定の養護教諭に先読み加配がついた。多忙な四・五月を二人で過ごし、引き継ぎを目的の子どもたちを見ながらゆっくりできると好評だ。中学校全校での給食が始まり、アレルギー対応等も必要になるが、養護教諭に丸投げは困る。そんな中、昼二時間の配膳員が配置された。組合員は少ないが、要求を声にしていきたい。

(養教部・三次)

## 大会宣言

### 平和と民主主義を守り、子どもと先生笑顔があふれる学校をつくろう

「ぼくの家も、ぼくの部屋も、ぼくの夢も、全部この戦争で壊されました。」  
「こんなことは終わりにしたい。学校に行きたい。友だちとまた会いたい。ここから抜け出したい。  
平和になって、どこか安全な場所で暮らしたい。」

今この時にも、命の危険にさらされているガザ地区の子どもたちの声です。戦闘の激化により、パレスチナ・ガザ地区は、子どもにとって世界で最も危険な場所となっています。ガザ全域のすべての子どもたちが、悲惨な攻撃にさらされ、暴力を目の当たりにしています。子どもが決して経験すべきでない物事を、ガザの子どもたちは日常的に経験しています。

ロシアのウクライナ侵攻とイスラエルとパレスチナの紛争、いずれも終わりが見えず、破壊された街と犠牲者の姿が連日伝えられることを子どもたちはどんな思いで見ているのでしょうか。軍事費大幅増、改憲気運をおおる発言、日本製鉄呉跡地を防衛拠点にする動き、広島市長の職員研修での教育勅語引用など、戦争につながる動きが深刻です。このような動きに抗し、被爆地ヒロシマから「教え子を再び戦場に送るな」の決意のもとに、世界の戦争終結と平和実現を求める行動を起こしましょう。

円安や物価高が家計を圧迫し、子どもたちの生活に影響を与えています。進まない教員不足の対策、少人数学級実現の遅れ、学校統廃合など、国のお金の使い方は、教育に向けられていません。文科省が進める「令和の日本型学校教育」は、中学校での35人学級を実現させることなく、産業界・政財界にとって都合のいい人材育成に偏重し、GIGAスクール構想・ICT教育を無批判に進め、全国学テなど競争によって成果を出させようとするものになっています。時間やスペース、人と関わることにゆとりがない教室で、タブレットを与えられた子どもたちが個々に指先で行う学習に私たちは大きな疑問をもちます。今こそ子どものゆたかな学びと生活を可能にするような政治に変えていくことが大切です。

全教の「7つの提言」にある「教職員定数の抜本的改善」「少人数学級の推進」「競争主義的な教育政策の見直し」「給特法の改正」「教職員の声を反映させるしくみづくり」を推し進めましょう。「残業代不支給」を温存した中教審「審議のまとめ」では、長時間労働の解消は望めません。定数増と長時間過密労働解消につながる給特法の抜本的改正を求めましょう。

全教広島第39回定期大会は、各職場で子どもや地域とともに民主的な教育活動をすすめる仲間の奮闘に共感するとともに、全教広島の存在価値を確認することができました。すべての子どもたちの成長と発達を大切に、憲法と子どもの権利条約にもとづいた教育を実現する取り組みをすすめましょう。教職員の誰もがいきいきと働けるような魅力ある学校・職場づくりを行うため、全教の仲間を増やし、仲間とともに運動をさらに広げましょう。

「教え子を再び戦場へ送らない」の決意とともに、平和と民主主義を守り、子どもと先生笑顔があふれる学校をつくっていきましょう。

右、宣言します。

2024年5月18日 全教広島第39回定期大会



議長を務めて頂いた市教組の河本さん(左)と海田支部の前川さん

### 特別決議を採択

大会では、特別決議「長時間過密労働を深刻化させる「審議のまとめ」に反対し、公立学校の教員への残業代を支給するしくみと教職員的大幅増を求めます」を採択しました。5月13日に公表された中教審特別部会の「審議のまとめ」は全国の教職員、教育関係者の願いに応えるものではありません。「審議のまとめ」の問題点を職場の仲間と市民・保護者に知らせ、職場を基礎に対話と共同を広げる取り組みをすすめます。

# 呉を再び軍都にするな！ 呉に400人が集結 広島市内で学習会を予定



18時30分、  
5月30日(木)  
広島ロードビル

防衛省が日鉄呉跡地(マツダスタジアム36個分)を「多機能な複合防衛拠点」にする構想を明らかにしたことを受け、「呉を再び軍都にするな」と呉市民を中心とした「日鉄呉跡地問題を考える会」が結成され、4月21日に呉市内で市民集会が開催されました。集会には県内外から400名が参加し、全教広島からもOBも含め20名あまりが駆けつけました。これは呉市だけでなく、広島県や日本の今後は左右する問題です。国民大運動広島県実行委員会は左記の日程で学習会を行います。

各地でメーデー集会が開催されました。労働者の連帯の中で全教広島の仲間が重要な役割を担っています。福山市(写真右)では小林前執行委員長が「働くものの生活と権利を守るためにすべての労働者と連帯しよう」と呼びかけました。呉市(同中央)では武本副委員長が「教職調整額の引き上げは、今の長時間労働の解消にはならない」ときっぱりと述べ新たな運動をすすめる決意を表明しました。広島市(同左)では神部副委員長(県労連議長)が「労働者が団結と連帯の力を示し、たたかいを飛躍させよう」と訴えました。

戦争する国づくり反対！  
県内各地で  
メーデー集会



春日井先生からは、不登校の子どもたちに寄り添うために『信じて任せて待つ』ことについて豊富な事例を挙げて分かりやすくお話があり、不登校支援の在り方についても具体的事例を挙げていただきました。「学校にはコロナ禍で分断された子どもたちの関係性を子どもたちが聴きながら、ていねいに再建していくことが求められています。そのためにも、同僚性の

冒頭、挨拶した武本実行委員長(全教広島副委員長)は、『このつどいは、それぞれの立場で不登校に対する悩み、対応の仕方、思いや考えを共有し、ネットワークをつくることで、不登校の子どもたちやその親への支援につながるかと考えています』とその意義を語りました。講演の前には、当事者、親、SSW、教員、市民の代表がそれぞれ問題提起をおこない、課題を出し合いました。それを受けて講演が行われました。

5月19日(日)に、呉で「不登校を考えるつどい」が開催され、不登校当事者、不登校の子の親、支援者、学校関係者、市民ら、約50人が参加しました。講師には、立命館大学名誉教授の春日井敏之先生を迎え、「子どもへの権利・ねがいと不登校支援」をテーマにして講演もありました。

不登校を考える  
つどい in 呉



会場につめかけた50名の参加者

この「つどい」では、当事者の高校生2人が自身の不登校体験を語る場面がありました。多くの参加者が、その言葉が一番心に響いたと感想を述べていました。かつて心もやもやと言葉にできなかった彼女たちが今、こうして大人たちの前で堂々と語る姿に大きな希望を持つことのできた「つどい」でした。そして、実行委員会をつくり、企画し成功させた当事者の親、専門家、教員、市民の協働の力に明日への希望を感じることができた会となりました。

回復が必要である」と指摘されました。その後、グループワークの中で参加者の思いを交流しました。「つどい」に参加した親は、「『ねばならない』を置いておく」という言葉が胸に刺さりました。親は知らず知らず、子どもに理想を押し付けているのかもしれない。今日から「うれしい」という言葉を大切に「信じて、任せ、待つ」を実行していきたいと思いました」と感想を語りました。

全教広島SNSへの登録を！

全教広島HP  
<https://zenhiro.net/>

全教広島X  
(旧) twitter

全教広島  
公式ライン

定期的に全教広島の取り組みや情報などをアップしています。ぜひ、登録してつながりましょう！

